

福岡県米麦大豆生育情報

平成29年4月24日
福岡県農林業総合試験場

麦類の生育概況と成熟期予測

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	3月21日～4月23日 (34日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	13.6	18.5	9.3	174	214
前年差(比)	-0.8	-1.6	-0.2	94%	86%
平年差(比)	+0.9	+0.8	+1.4	107%	173%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦類の生育と今後の予測 [小麦:11月18, 22日播種、大麦:11月25日播種]

3月21日～4月23日の平均気温は平年より0.9℃高く、日照時間は7%多く、降水量は73%多かった。

出穂期は、農産部では、平年に比べ小麦は3～4日、大麦は5日早かったが、筑後分場では、小麦は平年並で、大麦は4日早かった。全穂数は、小麦、大麦ともに農産部では平年並であったが、筑後分場では6～19%少なかった。4月24日以降の気温が平年並で経過した場合、成熟期は小麦、大麦ともに平年並～4日程度早くなると予測される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

今後の降雨が麦類の収量や品質に及ぼす影響は大きく、排水対策が重要である。排水溝の溝さらえを行い、排水口を整備して地表水の排水を図る。

(2) 赤かび病防除

赤かび病は、麦類の収量、品質に対する影響が大きく、防除は必須作業である。赤かび病に弱い品種や、降雨や曇天が続き多発生が予想される場合には、第1回防除の7～10日後を目安に防除を行う。具体的な防除薬剤は、普通作病虫害・雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(3) 穂揃期追肥

子実のタンパク質含有率12%以上を達成するため、ラー麦(ちくしW2号)とミナミノカオリは、穂揃期追肥を必ず実施する。穂揃期追肥は、10a当たり窒素量5kgを穂揃期～穂揃期後7日頃に施用する。チクゴイズミ等の日本めん用品種についても、地力が低い地域や葉色低下が著しい場合には、穂揃期追肥を窒素量2kg程度施用する。

(4) 適期収穫

共乾施設の荷受けについて、運営委員会等を早め開催して荷受計画を作成する。本年は収穫時期が平年よりやや早まると予想されるため、刈り遅れにならないよう注意する。

早刈りは、損傷粒の増加や品質低下を生じやすく、特にビール大麦では発芽率の低下や剥皮の発生が多くなる場合があるので、穀粒水分が25%以下になってから直ちに収穫を行う。

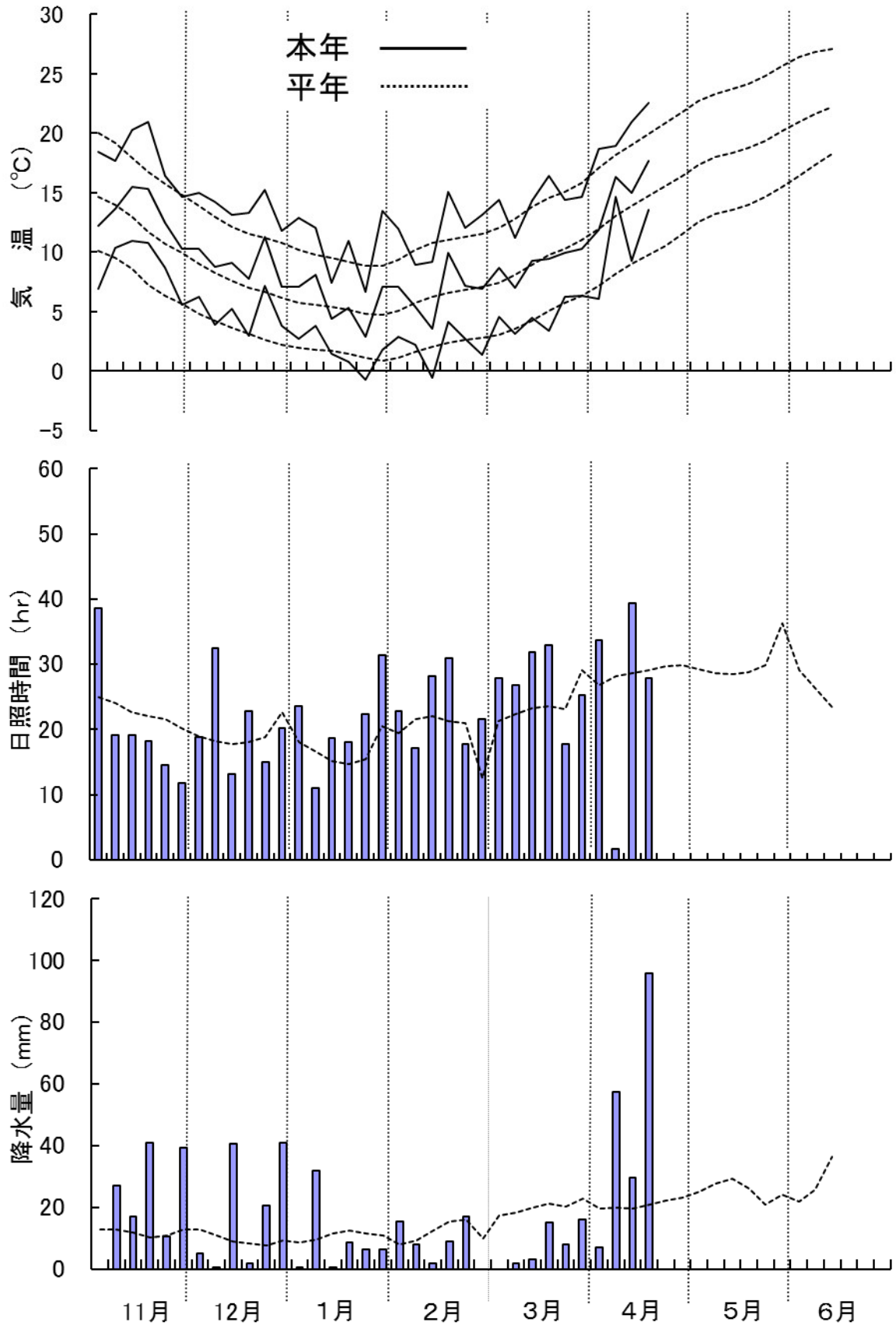
4. 農林業総合試験場における調査成績

調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	出穂期 月/日	開花期 月/日	予想 成熟期 月/日	全穂数 本/m ²
農産部	11.18	チゴイヌミ	本年	4/6	4/16	5/28	503
			前年比(差)	+4	+4	+4	99 %
			平年比(差)	-3	-3	-2	101 %
	11.25	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	4/5	4/15	5/29	421
			前年比(差)	+4	+4	+5	96 %
			前7年比(差)	-4	-4	-1	106 %
11.25	ほうしゅん	本年	4/4	—	5/15	495	
		前年比(差)	+2	—	+2	91 %	
		平年比(差)	-5	—	-4	100 %	
筑後分場	11.22	シカネギ	本年	4/7	4/16	5/26	490
			前年比(差)	+7	+6	+5	93 %
			平年比(差)	+1	±0	±0	87 %
	11.25	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	4/5	4/15	5/27	403
			前年比(差)	+8	+7	+8	93 %
			前8年比(差)	-1	±0	±0	94 %
11.25	はるしずく	本年	3/31	—	5/15	504	
		前年比(差)	+5	—	+3	92 %	
		前9年比(差)	-4	—	-3	81 %	

注1) 平年値はH18～27年播の平均値。

2) 予想成熟期は4月24日以降の気温が平年並で推移した場合の予測値で、今後の平均気温が1℃上下すると成熟期は±1～2日変動する。予測法は福岡県麦栽培技術指針を参照。

3) この値は暫定値で、今後変更することがある。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス：平成28年11月～平成29年4月)